

阿智村における「域学連携」 実践拠点形成モデル実証事業計画

名古屋産業大学
学長補佐・教授
成田暢彦

目 次

1. 名古屋産業大学の紹介と人材育成
2. 阿智村との域学連携事業計画



名古屋産業大学



環境情報ビジネス学部 環境情報ビジネス学科

環境ビジネス

情報コミュニケーション

ビジネスプロフェッション

名産大の学部・学科・大学院

2000年4月開設

●環境情報ビジネス学部

環境情報ビジネス学科 (定員190名)

ビジネスプロフェッションコース

情報コミュニケーションコース

環境ビジネスコース

●名古屋産業大学大学院

環境マネジメント研究科 環境マネジメント専攻

博士前期課程 (定員10名) 2004年4月開設

博士後期課程 (定員3名) 2007年4月開設

名古屋産業大学憲章



1.建学の精神

「**職業**教育をととして**社会**で活躍できる人材の育成」

2.大学の理念

「誠実にして創造性に富み、専門能力を身につけた、**産業社会**で活躍できる人材を育成する」

3.環境情報ビジネス学部理念

(1)ビジネスの知識を修得し、環境と情報に関する専門知識を活かし、**産業・経済の発展**に寄与できる人材を育成する。

(2)広範多岐にわたる**産業社会**の変化に即応できる**コミュニケーション能力**を培い、異文化への理解を深め、**国際的視野**で活躍できる人材を育成する。

(3)進展する高度情報社会にあって、情報処理・管理を駆使した**問題解決能力**を備えた人材を育成する。

社会実践を通じて学ぶ！ ビジネストレーニングプログラム

本学教育の最大の特徴は、「ビジネストレーニングプログラム」を中心とした実践教育にあります。**3年次春学期(4月～9月)には、3か月の長期インターンシップ**を中心とした多彩なビジネストレーニングプログラムを配置。学内外において、実践的な知識と社会人基礎力を同時に身に付けていきます。

◆オフキャンパスプログラム(学外)

- ①企業インターンシップ
- ②農山村インターンシップ
- ③海外インターンシップ

◆オンキャンパスプログラム(学内)

- ④(株)名産大GSBの学内
インターンシップ

- ⑤(独)中小企業基盤整備機構中部本部経営サポートチームと連携した
実践型学習(地域ビジネス論 I ～ V)



農山村のビジネスを体験！ 地域と連携した実践教育と学生の活躍

<農山村インターンシップ>

農山村をフィールドに、旅館ビジネスや、自然を活かした観光商品の企画・実施など農山村での「就業体験」と「地域研究」を組み合わせた実践教育です。

2012年8月から9月にかけて、14名の学生が5グループに分かれて、**三重県津市美杉町、長野県阿智村で、1週間の短期滞在型インターンシップ**に参加しました。

旅館ビジネスの就業体験に加え、観光用WEBページの改善や観光映像コンテンツの制作、森林セラピー、湧水米など特産品の収穫、販売などを体験することができます。



現地での打ち合せ(阿智村)



湧水米の稲刈り(美杉町)

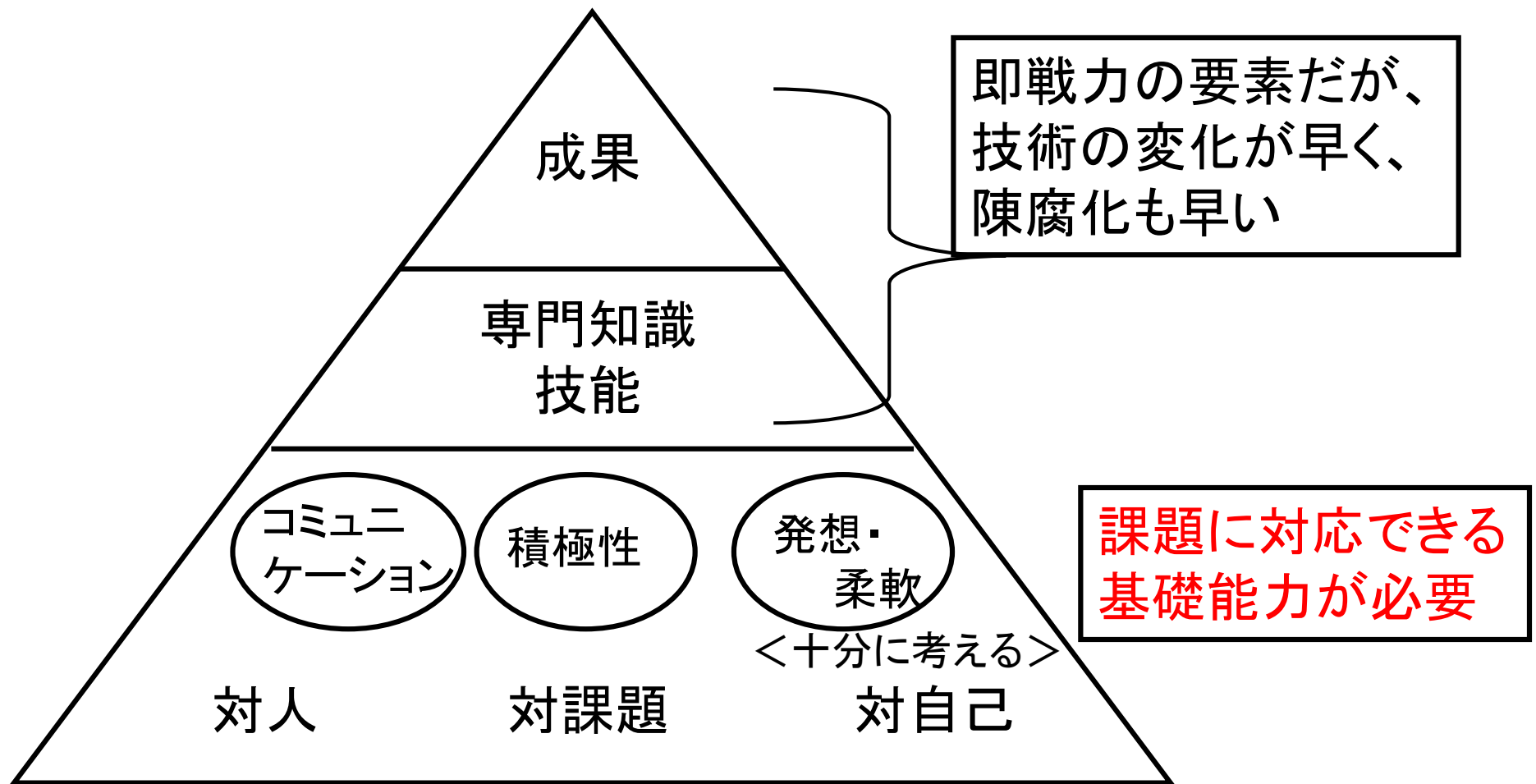


図 日本の企業が求める能力

社会人基礎力

1. 3つの力

「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」

2. 12の能力要素

「前に踏み出す力」: 主体性、働きかけ力、実行力

「考え抜く力」 : 課題発見力、計画力、創造力

「チームで働く力」: 発信力、傾聴力、柔軟性、規律性、
状況把握力、ストレスコントロール力

本学の社会人基礎力育成 への取り組み

○2009年度 経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」

○2010～2011年度 文部科学省「就業力育成支援事業」

社会人基礎力科目 <学内への浸透>

2010年度 9科目

2011年度 15科目

○2012～2014年度 文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

2012年度 30科目

2013年度 40科目

2014年度 60科目（開講科目の約1/3）

表 本学での4年間のキャリア教育プログラム

	1年	2年	3年	4年
▪働くことに対する期待 ▪就業の価値観 ▪就職力・活動能力 対人 (コミュニケーション) (チームワーク) 対課題 (積極的に取り組む) 対自己 (十分に考える) ▪基礎力 ▪専門知識	キャリア デザイン I・II	キャリア ガイダンス I・II 短期イン ターンシップ	ビジネス トレーニング プログラム ・長期イン ターンシップ など	知識と実践 をとおした 就職活動 ⇒成果
	社会人基礎力科目の受講			
	教養ゼミ I～IV			
				専門ゼミ I～IV (卒論)

農山村での合宿就業体験 (平成25年度)

本学2年生の4人が、三重県および長野県のインターンシップ協定を結んだ農村地域で、9月9日から20日まで2週間の実務研修に励みました。現地では地域活性化や産業振興などの研究課題にも取り組みました。

長野県では、阿智村の昼神温泉郷にある尾張旭市保養センター「尾張あさひ苑」で体験。掃除や夕食の片付けなどに加え、**村内の名所などの聞き取りや現地調査を行い、宿泊客増加に向けたツアープランを提案**しました。

三重県津市美杉町の太郎生地区では、住民組織が運営する旅館「たろっと三国屋」での裏方業務のほか、農作業や地域の環境整備に汗を流しました。研修課題として、**インターネットでの情報発信や、地産米のブランド化**についても研究しました。



【長野県
阿智村】



【三重県
美杉町】

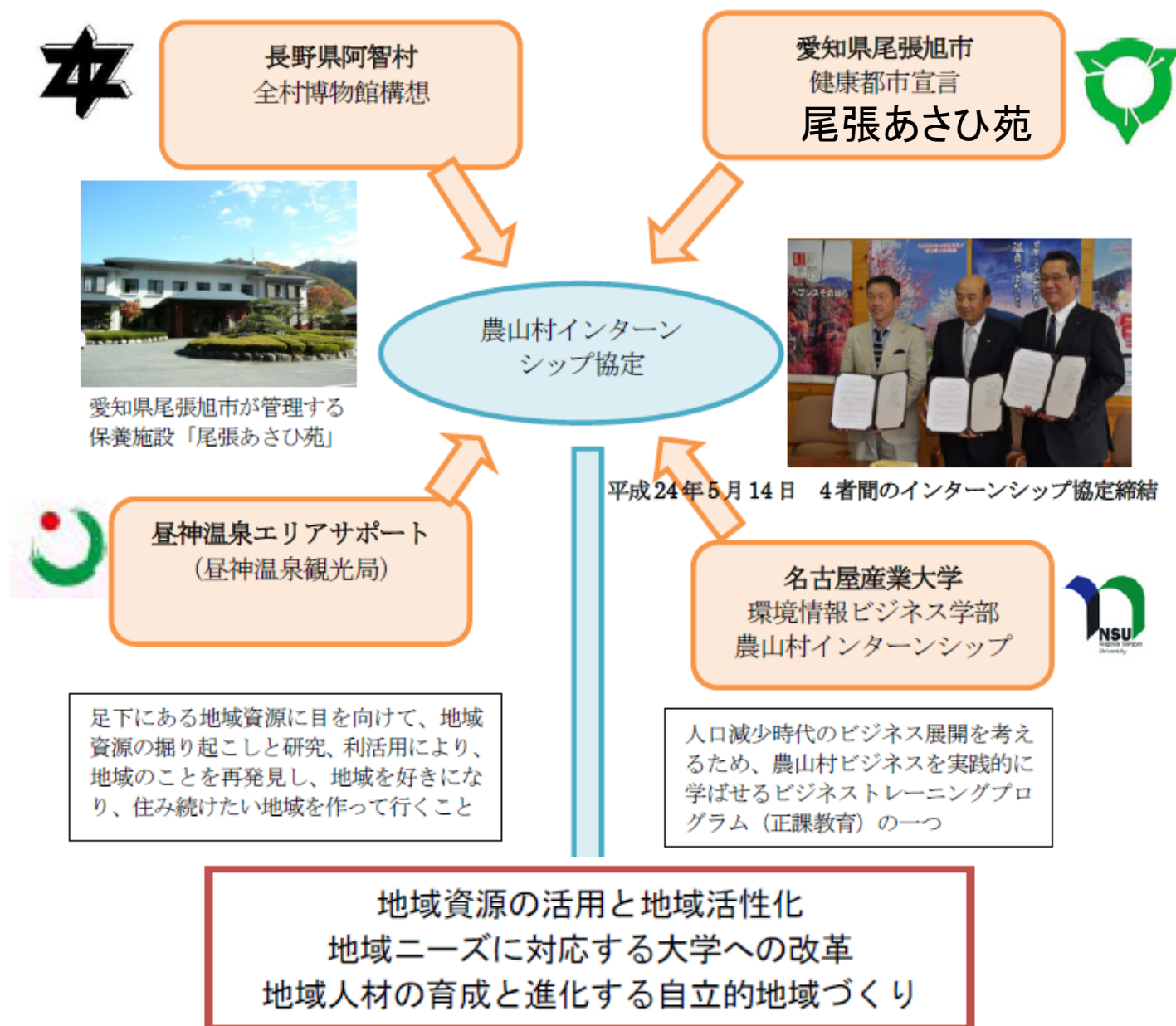
尾張旭市との連携活動(抜粋)

2009年度 連携協力に関する包括協定締結

2012年度 農山村インターンシップ協定締結

- JAあいち尾東と学生が連携した「**田んぼアートプロジェクト**」の実施(2009年度～)
- 尾張旭市の特産品であるイチジクを活用した商品開発に取り組む「**プチじくプロジェクト**」の実施(2011年度～)
- 本地ヶ原連合自治会と域学連携協定を締結し、自治会によるまちづくりビジョンの作成、実施等を支援する「**域学連携プロジェクト**」の実施(2012年度～)

阿智村との農山村インターンシップ協定



平成25年度 総務省事業

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業

地域と大学等の連携のもと、滞在型の地域づくり活動に取り組むべく環境整備を進めようとする地域の取組を支援する。（通称：「域学連携」実践拠点形成モデル事業）

1. 趣旨

地域再生を積極的に推進するため、地域と大学の協働プロジェクトにより、大学の秋入学導入もにらみながら、地域力創造人材の育成と自立的な地域づくりを推進する仕組みの構築を図る。

また、本事業を通じて、地域コミュニティの再生、地域資源の発掘、地域での産業創出、観光を通じた地域活性化等を図ることで、自らの発想で行う特色を持った地域づくりを支援する。

2. 事業の概要

○事業実施者

地方公共団体、大学、地域住民、NPO法人、地元企業等による連携主体

○モデル実証事業

地域に所在する施設等を拠点として、首都圏や京阪神等（当該都道府県域外）の大学生が地域に滞在し、地域住民とも交流を図りながら地域づくり活動を行おうとする地域の新たな取組を支援する。

○調査事業

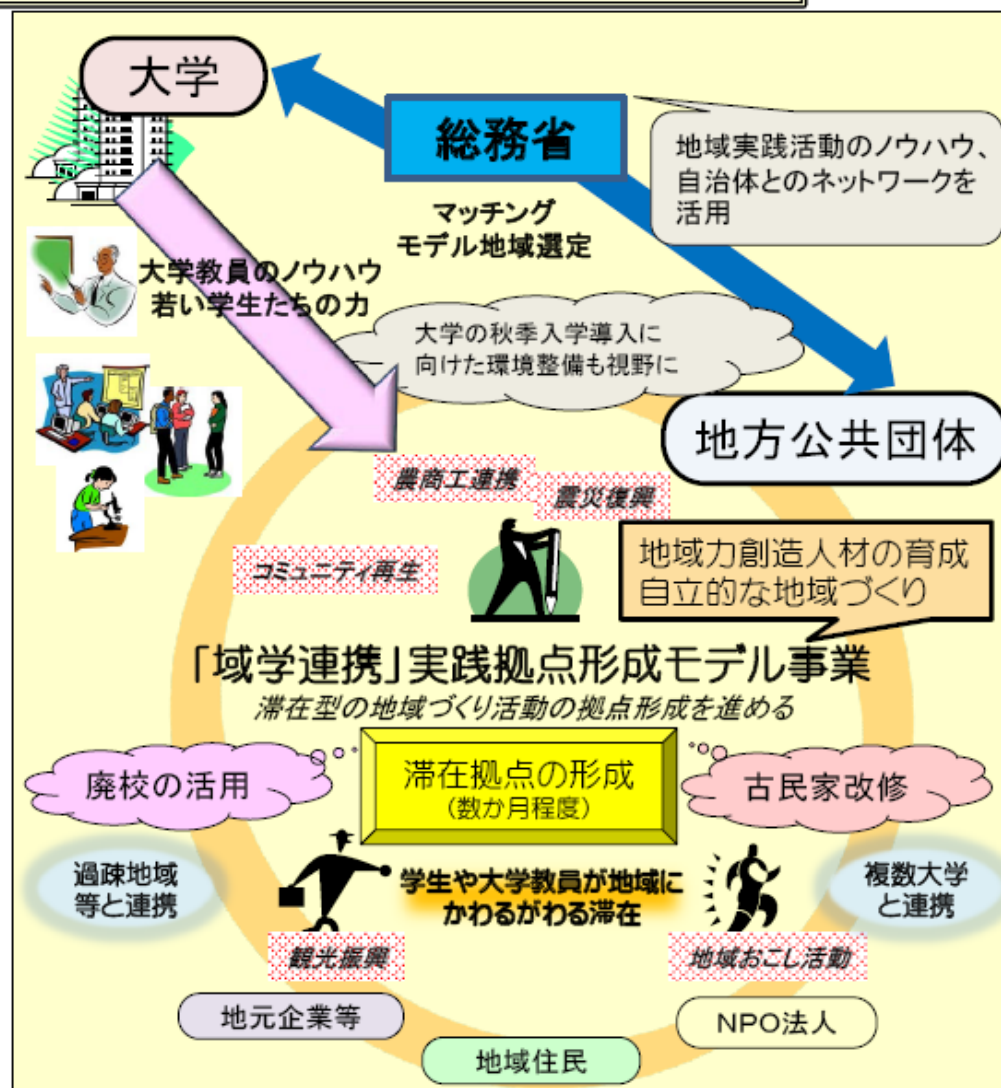
モデル実証事業で浮かび上がった課題等を整理し、その成果等について検証するとともに、地域づくり活動の拠点形成を全国的に展開させるためのノウハウや方策を取りまとめる。

また、有識者によるシンポジウムも開催する。

○本事業により目指す姿

将来的に、複数大学の連携による単位互換や入学前単位認定制度を活用し、四半期で8単位程度が取得可能なフィールドワークの拠点を全国各地に形成するとともに、地域実践活動を通じ、社会において即戦力となる創造的人材の育成にも資する。

3. 所要経費：20百万円



「域学連携」実践拠点形成モデル実証事業 採択団体

団体名	連携大学	事業概要
山形県 金山町	筑波大学、横浜国立大学等 4 大学	廃校を活用し、地域資源を展示物としたエコ・アート・ミュージアムの構築を目指し、学生が地域資源の調査・収集を実施。
千葉県 館山市	千葉大学、東京大学、九州大学	学生と地域住民が協働して古民家の茅葺き屋根を葺き替え、古茅を畑の肥料に使うことなどによる循環型社会の実践及び拠点を充実させ続ける取組を実施。
長野県 阿智村	名古屋産業大学	使われていない旅館の従業員宿舎を拠点とし、学生が地元観光産業等との協働による <u>就業体験及び地域資源の発掘</u> を実施。
兵庫県 篠山市	神戸大学、立命館大学	地域と大学・学生によるコミュニティビジネス創造の拠点の構築を目指し、学生が地元職人指導のもと空き家の改修を実施。
熊本県 菊池市	九州大学、熊本大学等 6 大学	古民家を活用して大学が地域で活動する拠点となるラボを構築し、コース別の課題への取組や新たな地域づくり人材の発掘を実施。

域学連携事業の概要－総務省ホームページより抜粋－

＜地域力の創造・地方の再生＞

1. 「域学連携」地域づくり活動

大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動。

・意義と課題認識

過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することは、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することにつながるとともに、地域に気づきを促し、地域住民をはじめとする人材育成に資するもの。

平成25年度「域学連携」実践拠点形成モデル実証事業 農山村インターンシップを活用した全村博物館構想の推進

1. 目的

尾張旭市保養センター「尾張あさひ苑」の使われていない従業員宿舎を拠点として、大学生が地元観光産業等との協働による就業体験及び地域資源の発掘を実施する。

2. インターンシップ実施日程

第1期 平成25年12月21日～27日

第2期 平成26年2月17日～25日（予定）

3. 実施内容

インターンシップ実施期間が冬期にあたることから、農作業やハイキングなどは実施困難が予想されるため、次の内容を重点的に行う。

全村博物館構想

施策目標

10年後の阿智村を見据えて

この構想は、足下にある地域資源に目を向けて、地域資源の掘り起こしと研究、利活用により、地域のことを再発見し、地域を好きになり、住み続けたい地域を作っていくことを目指します。

阿智村では、**地域資源を活用した地域づくり・住民運動**が多数展開しています。構想をわかってもらうためにできるだけわかりやすく、「**見える化**」を図ることが必要と思われます。

またこの構想は**多くの分野と連携**が期待されます。例えば**古民具・古写真による回想法**があります。教育の面では、小学校社会科の**郷土学習**があります。観光の面では、到着時小旅行のプログラムメニューとして期待されます。

全村博物館構想はこのように多様性や広がりがあります。**生きた博物館として地域をとらえる**ことから、これらを少しずつ輪を広げていく必要があります。

(1) 阿智村農山村の一年の現地調査

冬期は農閑期にあたるため、農作業や林業も活動が限られる。

・冬期の農山村の現状はどのようなものであり、どのような観光資源・地域資源があるのかについて現地調査を実施する。

都会で生活する大学生の視点から考えた観光振興策等の提案を行う。

(2) 昼神温泉の旅館や案内所における就業体験

宿舎として活用している尾張あさひ苑を中心に、就業体験を実施する。朝食・夕食時の配膳や片付け、日中の館内清掃等、旅館において必要不可欠な業務を実施し、接客・サービス業としての基本を学ぶ。

(3) 地域おこしのための活性化策の考案と提案(発表会)

大学生インターンシップの活動内容と、調査結果の報告、地域活性化の提案などを含む報告会を開催する。今年度の事業の評価やアドバイスも兼ねた報告会とする。



阿智村かるた

☆昭和49年(1974)完成。

クリスマスプレゼントとして、保育園児・小学生のいる全戸に配布。

☆編集委員は次の8名

矢沢 昇(委員長)、井原 一夫、
熊谷 元一(絵も)、井原 春岳(絵も)、
原 隆夫、熊谷 善弘、
原 治幸、佐々木 賢実



阿智村の誕生
昭和三十一年

☆解説書「あちむらかるたの本」が
昭和55年(1980)に発行された。
子供の文化を考える会 発行

<http://www11.plala.or.jp/samma116/karuta.html>

まとめ

1. 名古屋産業大学は、近年のキャリア教育の要請から、学生の実践力を高める新たなカリキュラムを導入した。関連地域の産業界などのご協力を得て、目標を達成していきたい。

2. 名古屋産業大学は、地域に貢献することを目指しているので、本事業の推進を通して、阿智村の地域資源を発掘し、活用を検討していく。ご指導をお願いしたい。

平成26年度以降も、長期インターンシップを通して阿智村との連携を強化していく。